

令和7年度 Ashiya Education Day in Summer (教育トーク)参加者 当日の出た意見とアンケート結果

令和7年度 Ashiya Education Day in Summer に多数のご参加いただきましてありがとうございます。今年のテーマは、「あしやで育つ「こども」のために～学校・地域ができること～」でした。

講演・コーディネーターを務めていただいた愛媛大学 露口 健司 教授と教育委員、保護者の方、地域住民の方、学生の方、学校園長が、立場を超えた意見交換ができたことを多くの参加者の方から評価いただきました。これからも、「継続的に対話できる場」を大切にしていきます。

「地域の子どもと関わる中で、幸せを感じた経験はありますか？」という問いかけでは、

- ・小学校の夏祭りで、楽しそうに過ごす子どもたちの姿を見たとき。準備は大変でも、それ以上の喜びがある。
- ・育休中に PTA 活動に関わり、自分の子どもだけでなく、地域の子どもたちの成長を見守れたこと。
- ・自治会でのお祭りを通じて、子どもたちとの交流が生まれたこと。
- ・コミュニティ・スクールのお祭りでは、準備や片付けは苦勞するものの、子どもたちの笑顔に触れられることが何よりの幸せ。
- ・だんじりや消防団。興味を示してくれる。保護者も地域を知れる。うちの子を地域が知ってくれる。

子どもの楽しめる居場所が増える。違った視点で子どもを見てくれる。

- ・自分が幸せだと思えば、それが子どもたちにも伝わるのでは？
- ・朝の挨拶当番を老人会にも協力をお願いした。子どもの声に苦情が多かったが、いつの間にか子どもがその人を覚えてイベント等で出会うとじゃんけんをするなど遊べる関係になった。



※アンケート※

【地域住民・学生の方から】

- ・講演から多くの示唆を得られた。特に不登校支援や地域協働の重要性を再認識。
- ・グループワークで多様な立場の参加者と交流でき、大きな学びとなった。
- ・well-being の考え方が新鮮で、地域での実践につなげたい。
- ・多様な立場の人とリラックスした雰囲気で見学交換できたのが良かった。
- ・今後も気軽に対話できる場があると良いと感じている。

【保護者の方から】

- ・露口先生の講演が分かりやすく、笑いも交えた内容で時間があっという間だった。
- ・ウェルビーイングの大切さを学び、子どもとの関わり方を考える契機になった。
- ・参加者がもう少し多ければ、議論がさらに深まったと感じた。
- ・今後、自身の活動(教育関連)と市の連携を図りたいと考えている。



【芦屋市立学校園長から】

- ・グループ協議を通じ、保護者との信頼関係を築く保育・教育の大切さを再認識できた。
- ・露口教授の講演がユーモアを交えつつも本質的で、とても学びがあった。
- ・インクルーシブ教育の取り組みに関する保護者からの指摘を真摯に受け止め、合理的配慮を保護者と共に検討する必要性を感じた。